

上映スケジュール CALENDRIER

7.17(土)	14:45 わがまなヴァカンス <i>Une fille facile</i> (92分)
	16:30 すべてが許される <i>Tout est pardonné</i> (105分)
7.18(日)	14:45 走り来る男 <i>Peaux de vaches</i> (87分)
	16:35 ガールフッド <i>Bande de filles</i> (113分)
7.19(月)	14:00 ブリュッセル1080、コメルス河畔通り 23 番地、ジャンヌ・ディエルマン <i>Jeanne Dielman, 23, quai du Commerce, 1080 Bruxelles</i> (200分) 【特別料金】 一般：1800円 *ポイント鑑賞適用外
	17:30 ルチャ・リブレの女王 カサンドロ <i>Cassandra, the Exotico!</i> (73分)
7.20(火)	14:45 走り来る男 <i>Peaux de vaches</i> (87分)
	16:25 わがまなヴァカンス <i>Une fille facile</i> (92分) 上映後、坂本安美による「フランスの女性監督」についてのレクチャーあり suivi d'une conférence d'Abi Sakamoto sur les réalisatrices du cinéma français *ポイント鑑賞適用外
7.21(水)	14:45 ジャック・リヴェット、夜警 <i>Jacques Rivette, le veilleur</i> (127分)
	17:05 若い女 <i>Jeune femme</i> (97分)
7.22(木・祝)	14:00 ブリュッセル1080、コメルス河畔通り 23 番地、ジャンヌ・ディエルマン <i>Jeanne Dielman, 23, quai du Commerce, 1080 Bruxelles</i> (200分) 【特別料金】 一般：1800円 *ポイント鑑賞適用外
	17:30 ルチャ・リブレの女王 カサンドロ <i>Cassandra, the Exotico!</i> (73分)
7.23(金・祝)	14:45 ガールフッド <i>Bande de filles</i> (113分)
	17:00 若い女 <i>Jeune femme</i> (97分)

7.31(土)	13:00 ブラックパンサーズ <i>Black Panthers</i> (28分) ドキュメントゥール <i>Documenteur</i> (65分)
	14:50 壁画・壁画たち <i>Mur murs</i> (82分)
8.1(日)	13:00 ブラックパンサーズ <i>Black Panthers</i> (28分) ドキュメントゥール <i>Documenteur</i> (65分)
	14:50 壁画・壁画たち <i>Mur murs</i> (82分)

【お問い合わせ】
アンスティチュ・フランス横浜
〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-76 明治屋尾上町ビル 7階
Tel | 045-201-1514 Web | www.institutfrancais.jp/yokohama/

特集 カンヌ国際映画祭とフランスの女性監督たち
【主催】 アンスティチュ・フランス横浜 【共催】 横浜シネマリン 【助成】 アンスティチュ・フランスバリ本部 【アンスティチュ・フランス 日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー】 CNC、笹川日仏財団、TV5 MONDE 【フィルム提供及び協力】 フォンダンオン・シャンタル・アケルマン・シネマテーク・ロワイヤル・ドゥ・ベルジック、ラ・トラヴェルズ、ピラミッド・フィルムズ、新文芸坐、肌蹴る光線、グッチーズ・フリースクール、アットエンタテインメント、サンリス

Femmes à Cannes : réalisatrices au Festival de Cannes
Organisé par : Institut français du Japon - Yokohama et Yokohama Cinemarine ; avec le soutien de : Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE ; remerciements : Fondation Chantal Akerman - Cinémathèque royale de Belgique, La Traverse, Pyramide Films, Shin Bungeiza, Hadakeru-kosen, Cucchi's Free School, At Entertainment, Senlis

* 本企画は、シネ・ヌーヴォ (大阪)、出町座 (京都) にて8月・9月頃巡回予定です。



【会場・お問い合わせ】横浜シネマリン



〒231-0033 横浜市中区長者町 6-95
Tel | 045-341-3180
Web | www.cinemarine.co.jp

- JR 京浜東北線「関内駅」北口から徒歩 5分
- 横浜市営地下鉄「伊勢佐木長者町駅」3B 出口から徒歩 2分
- 京浜急行「日ノ出町駅」から徒歩 5分

【料金】
一般：1500円（一部作品特別料金 1800円）
大専・シニア：1100円／高校以下：800円
横浜シネマリン会員、アンスティチュ・フランス会員：
一般から 300円引き
(アンスティチュ・フランス横浜会員は、ポイントカードの 3 ポイントで 1 回無料 ※当日提示・一部作品適用外)
※開場時間：10 分前

【チケット販売】
チケットは、オンライン・劇場窓口共に、ご鑑賞日の 3 日前から指定席で発売します。



特集 | カンヌ国際映画祭とフランスの女性監督たち

2021. 7.17 土ー8.1 日
du 17 juillet au 1er août 2021



特集

カンヌ国際映画祭とフランスの女性監督たち

FEMMES À CANNES RÉALISATRICES AU FESTIVAL DE CANNES

7月に予定されている今年のカンヌ国際映画祭の開催にあわせ、同映画祭にて紹介されたフランスの女性監督を特集します。1962年に長編二作目『5時から7時までのクレオ』がコンペティション部門に選出され、2015年には女性で初めてカンヌ国際映画祭におけるパルム・ドール名誉賞を受賞した女性監督の先駆者、アニエス・ヴァルダ。1975年の監督週間に出品された『ブリュッセル1080、コメルス河畔通り23番地、ジャンヌ・ディエルマン』が、映画づくり、そしてものの見方を一新させ、現在も世界の映画作家に多大な影響を与え続けているベルギーのシャンタル・アケルマン。80年代後半、90年代以降に、それぞれ独自のスタイルでフランス映画に新たな風を吹き込んでいったクレール・ドゥニ、パトリシア・マズィ、また次世代を担う才能として目が離せないミア・ハンセン＝ラブ、セリーヌ・シアマ、レオノール・セライユ、マリー・ロジエ、レベッカ・ズロトヴスキなど、その多様で豊かな作品群を通して、女性監督たちがつくりだしてきた映画芸術の歴史をたどります。

2015年カンヌ国際映画祭パルム・ドール名誉賞受賞

世界中の映画作家やシネフィルから愛され、映画史にその名を刻むアニエス・ヴァルダ。アメリカで撮影された貴重な日本未公開作品を上映します。

アニエス・ヴァルダ AGNÈS VARDA



壁画・壁画たち | Mur murs d'Agnès Varda (フランス＝アメリカ / 1980年 / 82分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：アニエス・ヴァルダ 出演：ジュリエット・ベルト、マチュー・ドゥミ、アニエス・ヴァルダ

ロサンゼルスストリートアートを捉えたドキュメンタリー。壁画とその作者、モデルたちがしばしば同時に撮影されている。メキシコ移民による壁画にスポットが当てられ、アメリカ政府による国家的暴力が彼らのコミュニティやそのアートに及ぼした影響も考察される。Los Illegalsに代表されるメキシコ系バンクロックのパフォーマンスもフィーチャーされ、当時の熱気と創造性が伝わってくる。



ドキュメントゥール | Documenteur d'Agnès Varda (フランス＝アメリカ / 1981年 / 65分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：アニエス・ヴァルダ 出演：サビーヌ・マム、マチュー・ドゥミ、デルフィーヌ・セイリグ(ナレーション)

愛する人と別れたエミリーは、喪失感のなか、ロサンゼルスで8歳の息子と静かな生活を紡いでいる。映画の仕事でタイピストをしている彼女は、ある日、海辺にでかけ、目の前の海に自分の人生を重ねあわせながらタイプライターを打つ。過去の情熱の記憶がよみがえり、心が掻き乱されるが、息子にすべての愛情を捧げることで失望から立ち上がろうとする。その胸のうちにある困惑は、彼女自身よりも、彼女が眼差しを向ける他者によって映しだされていく。



ブラックパンサーズ | Black Panthers d'Agnès Varda (フランス＝アメリカ / 1968年 / 28分 / カラー＆モノクロ / デジタル / 日本語字幕)

監督：アニエス・ヴァルダ 出演：H. ラップ・ブラウン、ストークリー・カーマイケル、エルドリッジ・クリーヴァー

1968年オークランドでブラックパンサー党のリーダー、ヒューイ・P・ニュートンの裁判の際に起こった抗議の様子を追ったドキュメンタリー。フランスで5月革命が起こるなか、アメリカではブラックパンサー党が演説やデモを行い、急進的な活動を展開しながら黒人解放を提唱していた。また女性たちも声を挙げ、自身の権利と黒人であることへの誇りを表明した。本作は短い映像のなかで、アメリカ系黒人の苦難の歴史における特別な瞬間を捉えている。

◆ 1975年カンヌ国際映画祭監督週間出品 ◆



ブリュッセル1080、コメルス河畔通り23番地、ジャンヌ・ディエルマン

Jeanne Dielman, 23, quai du Commerce, 1080 Bruxelles de Chantal Akerman

(ベルギー＝フランス / 1975年 / 200分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：シャンタル・アケルマン 出演：デルフィーヌ・セイリグ、ジャン・ドゥコルト、アンリ・ストルク

45歳のジャンヌは、16歳の息子と二人暮らしをしている。息子が学校に行っている間、彼女は「客」とをとっている。湯を沸かし、ジャガイモの皮をむき、買い物にでかけ、食事をし、眠りにつく…。シャンタル・アケルマンは、ジャンヌの「平凡な」暮らしを執拗なまでに描写しながら、やがて訪れる反日常に至る、ぞっとするような時空間を見事につくりだし、映画に革命を起こした。その後もフィクション、ドキュメンタリー、実験映画、文学の脚色など、様々なジャンルで新しい映画の形態を探索し、現代映画の可能性を率先して見いだしていった。

◆ 1989年カンヌ国際映画祭ある視点部門出品 ◆



走り来る男 Peaux de vaches de Patricia Mazuy

(フランス / 1988年 / 87分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：パトリシア・マズィ 出演：ジャン＝フランソワ・ステヴナン、サンドリーヌ・ボネール、ジャック・スピエセル

北フランスのある田舎町、ジェラルドは兄とともに酩酊し、農場に火事を起こしてしまい、たまたまそこにいた浮浪者が命を落としてしまう。10年後、刑務所から出所した兄は、美しいアニーと結婚し、娘ができ、あらたに農場を持つジェラルドのもとに戻ってくる…。ジャック・ドゥミ『都会のひと部屋』の編集助手、そしてアニエス・ヴァルダ『冬の旅』のアシスタントを務めた後、パトリシア・マズィは、荒涼とした風景のなか、アクションによって生まれるむき出しの感情を捉えた本作で長編デビューを飾り、その並々ならぬ才能でカンヌを震撼させた。



ジャック・リヴェット、夜警 Jacques Rivette, le veilleur de Claire Denis

(フランス / 1990年 / 127分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：クレール・ドゥニ 撮影：アニエス・ゴダール 編集：ドミニク・オブレール 出演：ジャック・リヴェット、セルジュ・ダネー、ビュル・オジエ、ジャン＝フランソワ・ステヴナン

常に新たなジャンル、スタイルを追求しながら、人間の奥深くにある欲望、暴力性、愛の形などを、時に瑞々しく、時に生々しく、時に禍々しく映し出すクレール・ドゥニが、師匠でもあるジャック・リヴェットを捉えたドキュメンタリー。リヴェットがかつて撮影したパリのいくつかの場所を訪れながら、現代と過去、フィクションとドキュメンタリー、昼と夜、光と影が交錯して行く。顔を撮ること、身体を撮ること、セクシュアリティとは、ヌーヴェルヴァーグとは、孤独であるとは、そして映画＝人生とは…。

【肌蹴る光線 共催企画】 ◆ 2007年カンヌ国際映画祭監督週間出品 / 2007年ルイ・ドリュック賞受賞 ◆



すべてが許される Tout est pardonné de Mia Hansen-Love

(フランス＝オーストリア / 2006年 / 105分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：ミア・ハンセン＝ラブ 出演：ポール・ブラン、コンスタンヌ・ルソー、マリークリスティヌ・フリードリッヒ

ウィーンで妻のアネットと幼い娘バメラと暮らすヴィクトールは、仕事もせず、放埒な生活を送っていた。パリに戻っても変わらず、ついにアネットは娘と一緒に彼の前から姿を消す。それから11年後、17歳になったバメラは、ある日、同じ街に父が暮らしていることを知り、会いに行くことを決意する…。ミア・ハンセン＝ラブが25歳で撮った長編デビュー作。自伝的要素からスタートしながら、語る対象への洞察力に富む距離感は、すでに成熟した才能を感じさせ、その年の最も優れた新人に贈られるルイ・ドリュック賞を受賞。また長編二作目『あの夏の子供たち』で2009年カンヌ国際映画祭ある視点部門審査員特別賞を受賞。確実に大きな存在として成長し続け、新作『Bergman Island(原題)』は今年の同映画祭コンペティション部門にてペールを脱ぐ。

◆ 2014年カンヌ国際映画祭監督週間オープニング上映 ◆



ガールフッド Bande de filles de Céline Sciamma

(フランス / 2014年 / 113分 / カラー / デジタル / 日本語＆英語字幕)

監督：セリーヌ・シアマ 出演：カリジャ・トゥーレ、アッサ・シーラ、リンゼイ・カラモウ

パリ郊外に住む16歳のマリエムは、忙しい母親と暴力的な兄の代わりに小さい妹たちの面倒をみる日々で、成績が悪く高校進学もままならない。そんな状況に鬱屈していたある日、不良の少女たちと出会い、つるむようになる。次第に抑圧されていた感情を吐き出すように家族とも距離を置きはじめ、彼女はひとり、より危険な世界に足を踏み入れながら、自分の人生を生きようとする…。最新作『燃ゆる女の肖像』が2019年カンヌ国際映画祭コンペティション部門で脚本賞とクィア・パルム賞をW受賞し、その類稀なる才能で観るものを魅了するセリーヌ・シアマ監督が、少女たちの衝動と痛みを鮮やかに描いた傑作青春映画。

◆ 2017年カンヌ国際映画祭新人監督賞受賞 ◆



若い女 Jeune femme de Léonor Serraille

(フランス / 2017年 / 97分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：レオノール・セライユ 出演：レティシア・ドッシュ、グレゴワール・モンサンジョン、スレイマン・セイ・ンディアイ

31歳のポーラは、10年付き合った写真家の恋人に突然別れを告げられる。お金も、家も、仕事もない彼女は、恋人の飼った猫とともにパリを転々とするはめに。何をやっても裏目に出てしまい、意気消沈するなか、ようやく自分の居場所を見つけたかと思えたが…。自由奔放でちょっとくせ者のヒロインが、新たな人生に向かって少しずつ前へと進んでいく。現代に生きるすべての女性に贈る、孤独と自由、そして希望の物語。レオノール・セライユが卒業制作の脚本をもとに完成させ、2017年カンヌ国際映画祭新人監督賞の快挙を成し遂げた鮮烈なデビュー作。現在、新作『Petit frère(原題)』製作中。

◆ 2018年カンヌ国際映画祭ACID部門出品 ◆



ルチャ・リブレの女王 カサンドロ Cassandra, the Exotico! de Marie Losier

(フランス / 2018年 / 73分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：マリー・ロジエ 出演：カサンドロ

満身創痍で闘い続ける「ルチャ・リブレ界のリベラーチェ」、カサンドロ。男らしいマッチョが占めるスポーツのなかで、煌びやかにメイクアップをし、美しく着飾るエクソティコのレスラーたちは、対戦相手とだけでなく偏見とも闘う。カサンドロは、そのエクソティコの頂点に立つスターだ。ドキュメンタリーの常識を打ち砕き、ポップでキッチュな世界観で独自のフィルモグラフィーを築きあげてきたマリー・ロジエによる作品は、カンヌ国際映画祭、ベルリン国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭をはじめとする数々の映画祭や、ニューヨーク近代美術館、ボンビドー・センターなど世界有数の美術館でも上映され、国際的に高い評価を得ている。

◆ 2019年カンヌ国際映画祭監督週間出品 ◆



わがままなヴァカンス Une fille facile de Rebecca Zlotowski

(フランス / 2019年 / 92分 / カラー / デジタル / 日本語字幕)

監督：レベッカ・ズロトヴスキ 出演：ミナ・ファリド、ザヒア・ドゥハール、ブノワ・マジメル

カンヌに暮らす16歳の少女ネイマは、帰省していた従姉ソフィアと夏休みを過ごすことに。ソフィアは普段パリに暮らし、22歳ながらも高級ブランド品を身に纏い、艶やかに魅力的な女性になっていた。ネイマが初めて経験する大人の世界で、自由奔放に振る舞うソフィアと彼女を誘うお金持ちの男たち。今までと違う刺激的な夏が始まる…。レア・セドゥ主演の初長編監督作『美しき棘』が2010年カンヌ国際映画祭批評家週間で上映され、強烈な印象を残したレベッカ・ズロトヴスキ。本作はカンヌを舞台に、元高級コルガールであり、カール・ラガーフェルドの後押しで自身のブランドがパリコレデビューを果たしたモデルのザヒア・ドゥハールを起用した話題作。